

子どものための イエスさまのお話

文キクリスティーナ・グディングス 絵キジャン・ルイス 訳キ女子パウロ会





子どものための イエスさまのお話

文 クリスティーナ・グディングス
絵 ジャン・ルイス
訳 女子パウロ会
発行所 女子パウロ会
代表者 浅井朋子
〒167-0052 東京都港区赤坂8-12-42
Tel/03/3479-3943 Fax/03/3479-3944
<http://www.pauline.or.jp>

印刷所 洋泉印刷株式会社
初版発行 2008年11月21日

ISBN978-4-7896-0660-8 C8716
NDC 193 P48 27cm

I WANT TO KNOW ABOUT JESUS
by Christina Goodings & Jan Lewis

Text copyright ©2008 by Christina Goodings.
Illustrations copyright ©2008 Jan Lewis.
Original edition published in English under the title I want to know about Jesus
by Lion Hudson plc, Oxford, England. Copyright © Lion Hudson plc 2008.
Japanese translation rights arranged with Lion Hudson plc, Oxford, England
through Tuttle-Mori Agency, Inc., Tokyo.
Published 2008 in Japan by Joshi Paulo kai. © Joshi Paulo kai

文/クリスティーナ・グディングスは、小学校や日曜学校で教え、
物語の語り部として活躍した経験から、子どものために本を書くようになった。
聖書や祈りに関するかわいい絵本など、多くの作品がある。

絵/ジャン・ルイスは、数多くの本のイラストレーションを手がけてきた。
本書の絵師編ともいえるクリスティーナ・グディングスが書いた「I want to know about the Bible」の
イラストレーションも担当している、イングランド在住。

リ・ブックデザイン/森 本の実

子どものための イエスさまのお話

文✦クリスティーナ・グディングス
絵✦ジャン・ルイス
訳✦女子パウロ会



女子パウロ会

もくじ

- 1 お話のはじめに
- 2 イエスさまのたんじょう
- 3 お生まれになった王さまに おくりもの
- 4 子どものころのイエスさま
- 5 イエスさまの新しい出発
- 6 教える人、イエスさま
- 7 よいおこないをすること
- 8 新しい教えと、古い教え
- 9 おいのりのしかた
- 10 神さまの^{かみ}愛



- 11 ゆるしの力
 - 12 世界をかえる きせき
 - 13 イエスさまと子どもたち
 - 14 イエスさまについていく人って？
 - 15 イエスさまのエルサレム行き
 - 16 苦しみを 受けるまえに
 - 17 さいごの夕飯
 - 18 いちばん悲しい日
 - 19 ふっかつ
 - 20 世界中に知らせること
- さくいん



1 お話のはじめに

いまから2000年もまえのこと。
お日さまがかがやく、あたたかい国、ユダヤでのお話です。
イエスさまは、そこで神さまのこと、神さまがみんなにのぞんで
いらっしゃることを話してくださいました。
おおぜいの人 が イエスさまのお話をしんじ、お弟子になりたい
とついていきました。

たねをまく人

おかの上のひつじかい

戸外でやきものをつくる人

井戸から水をはこんでいる人

家でぬいのおもちゃをおっている人

2000年たったいまは、ユダヤの国だけでなく、世界中で、たくさん
たくさんの方が、イエスさまをしんじ、イエスさまが教えてくださった
ように 生きたいとわがっています。



4つの福音書

イエスさまのことを
知るために
聖書の中の
とてもだいじな
4つの本。
それは、マタイが書いた、
よい知らせの本、
マルコが書いた、
よい知らせの本、
ルカが書いた、
よい知らせの本、
ヨハネが書いた、
よい知らせの本です。
福音書といいます。

ガリラヤ湖で
魚をとっているりょうし

子どもたちに
お話をしているイエスさま



2 イエスさまのたんじょう

天使は、神さまの
メッセンジャーです

天使の
ガブリエル



では、イエスさまのたんじょうから お話ししましょう。
ルカの福音書は、ナザレという町からはじまります。
ある日、その町のマリアという少女のところに、天使が、神さまの
おことばを つたえにきました。
「マリア、神さまが あなたをおえらびになりました。
あなたは 神さまの み子のおかあさんになってください。イエスと
おなまえをつけてね。」

マリアはびっくりしました。でも、いつも
神さまの おのぞみどおりにしたいと思
っていたので、答えました。「はい。」

まもなく、マリアは、じぶんのおな
かの中に 赤ちゃんがいると、かんじ
ました。

マリアには、けっこんのやくそく
をしている人がいました。大工のヨ
セフです。

そのうちに、マリアとヨセフは、
国のめいれいで 遠いベツレヘム
という町に行かなければならなくな
りました。ベツレヘムについた
とき、町は、おおぜいの人でごっ
たがえしていました。とまるやど
も ありません。ふたりはしかた
なく 馬小屋 にやすんだのです。

その夜、マリアのあかちゃん、
イエスさまは お生まれになりました。

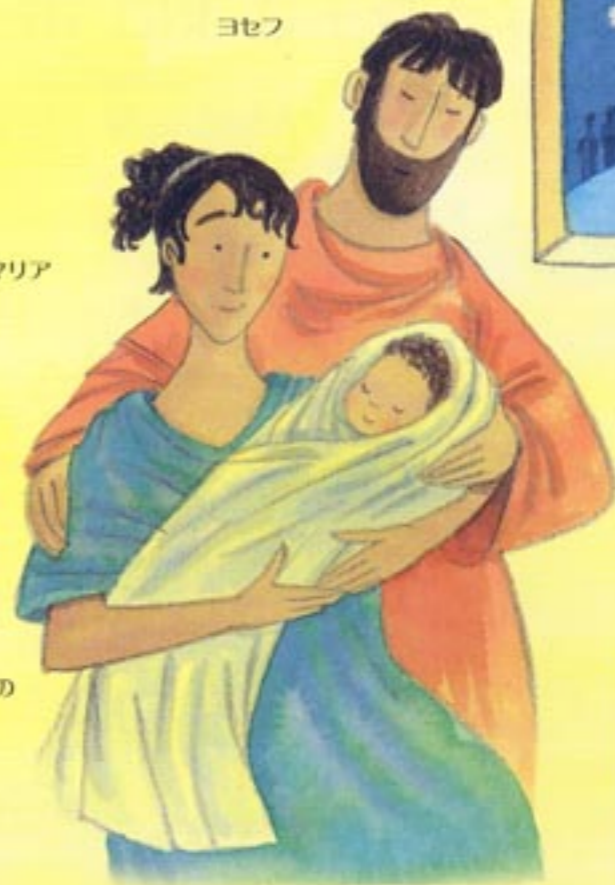
ヨセフ

マリア



ひつじかいたち

あかちゃんの
イエスさま



マリアはじゅんびしてきた やわらかいぬので イエスさまをつつ
み、動物のかいばおけを ゆりかごのかわりにしました。近くの野原
では、ひつじかいたちが 夜どおし ひつじの番をしていました。す
ると、神さまの光につつまれた天使たちが あらわれ、「ベツレヘム
で、すくいぬしが お生まれになった」と、歌うではありませんか。

ひつじかいたちは いそいで行って、見つけたのです。ベツレヘム
の馬小屋で、マリアとヨセフに見まもられて、かいばおけにねかされ
たイエスさまを。

「ほんとうだったね、天使たちがいったことは」と、ひつじかいたち
はおよろこびでしんじたのです。



クリスマス

イエスさまの
たんじょう日は、
クリスマスという
おまつりになりました。
12月25日です。
馬小屋のまけいに、
イエスさまのごぼうや
プレゼントをかざって
おいわいをします。

3 お生まれになった王さまに おくりもの



マタイの福音書は、イエスさまのたんじょうのとき、遠い東の国から おくりものを持っておがみに来た、学者たちのことを書いています。この人たちは、じぶんの国で星のけんきゅうをしながら、新しい星のたんじょうを発見しました。「あ、これはきっと、ユダヤの国につたわる、新しい王さまのたんじょうを知らせる星だ。さあ、おがみにいこう。」星をめじるしに、学者たちは、旅をして、ユダヤの王の都、エルサレムにつきました。

「ユダヤの新しい王さまは、どこですか。」

王宮にいたユダヤの王ヘロデはびっくりしました。「なんだって？ わしのほかに王はいらない。」王は、ユダヤの祭司たちにたずねました。祭司たちはいいました。「聖書に書いてあります。『ある日、神さまは、新しい王さまを ベツレヘムに生まれさせます』と。」

ヘロデ王は、東の国の学者たちを小さな町ベツレヘムにおくりました。

あかんぼうのたんじょうをたしかめてから すぐころしてしまおうと思いつながら。

学者たちは、ベツレヘムに行って マリアといっしょのイエスさまを見つけ、もってきたおくりものをさしあげました。



3つのおくりもの

学者たちのおくりものは、なんだったのでしょうか？ おうこん(星)と、とてもいいかおりのするにゅうこうと、だいじにされていたもつやくという くすり。どれも、りっぱな王さまに にあったおくりものでした。わたしたちは、なにをフプレゼントしたいでしょう？

その夜、学者たちは 天使のゆめを見ました。「ヘロデのところへ帰ってはいけない。ちがう道から まっすく 国に帰りなさい」と、天使はいいました。天使は、ヨセフのゆめでもいいました。「マリアとイエスをつれて エジプトの国へ、にげなさい。」こうして、三人はぶじにエジプトににげ、ヘロデ王が死ぬまでそこにいてから、ナザレに帰りました。

おうこん

もつやく

にゅうこう



遠い国の学者たちがたずねてきたのは、イエスさまが、みんなの心の王さまだということのしるしです。

4 子どものころのイエスさま



聖書を読んで
べんきょうするイエスさま

聖書は、神さまのこと、世界と人間のはじまり、神さまが、人間にのぞんでいらっしゃることを、そして、ユダヤ人のれきしなどが書いてある本です。神さまが、これだけは守りなさい、と教えてくれたきまりを「律法」といいます。律法をべんきょうして、人にも教えることができる人を「律法学者」といいます。この人たちは、先生といひの「ラビ」ともよばれました。

イエスさまが12歳になられたときのこと。すぎこし祭にイエスさまは両親といっしょにエルサレムの宮に行かれました。おまつりが終わってから、両親は、ナザレの人たちみんなと帰りはじめました。夜になって、とまろうとすると、イエスさまのすがたが見えませんが、マリアとヨセフはびっくりして、さがしまわりました。とうとう、エルサレムの宮までひきかえしてくると、イエスさまは、宮の中で、神さまに仕える祭司や、ラビたちにかこまれて、話したり、しつもんしたりしておられたのです。マリアは思わず、しかりました。

すぎこし祭

すぎこし祭というのは、ユダヤ人にとって、とてもたいせつな、春のおまつりです。むかしむかし、ユダヤ人のせんぞが、エジプトの国にいて、苦しい生活をしてたとき、神さまは、モーセという人をえらんで、しどうしゃにし、みんなを、いまのイスラエルの地につれてゆくようにされました。そのできごとを思い出して、かんしゃするおまつりでした。おまつりには、たくさんの方が、都エルサレムの宮におまいりすることになっていました。



エルサレムの宮で

マリアと
夫のヨセフ

ユダヤの律法学者は
ラビとよばれる

少年イエス

「どうして、こんなにしんばいさせるのです。」すると、イエスさまは、びっくりしたように、いわれました。「わたしが、おとうさんの家にいることを知らなかったの？」

でも、それからイエスさまは、マリアとヨセフといっしょに、ナザレの家に帰られたのです。イエスさまは、すなおな子どもとして、両親にしがいながら、大きくなっていかれました。ナザレの人たちからは、「大工ヨセフの子」と思われていました。

先生たちは注意深く
イエスさまに
目をかたむけ、
イエスさまが
語られることを
ききました。

5 イエスさまの新しい出発

おとなになったイエスさまは、新しい生活をはじめられます。

まず、さいしょに、ヨハネのところに行きました。ヨハネは、そのころヨルダン川の岸で、神さまに心をむけるようすすめて、心をきよめるしるしの洗礼をさずけていた人です。「わたしにも、洗礼をさずけてください」と、イエスさまはおっしゃいました。ヨハネは、イエスさまが、いつも神さまをたいせつにしているりっぱな人と知っていたから、びっくりしました。

イエスさまが洗礼の水から上がられると、天から声が聞こえました。「この人は、神さまのみ子です。」

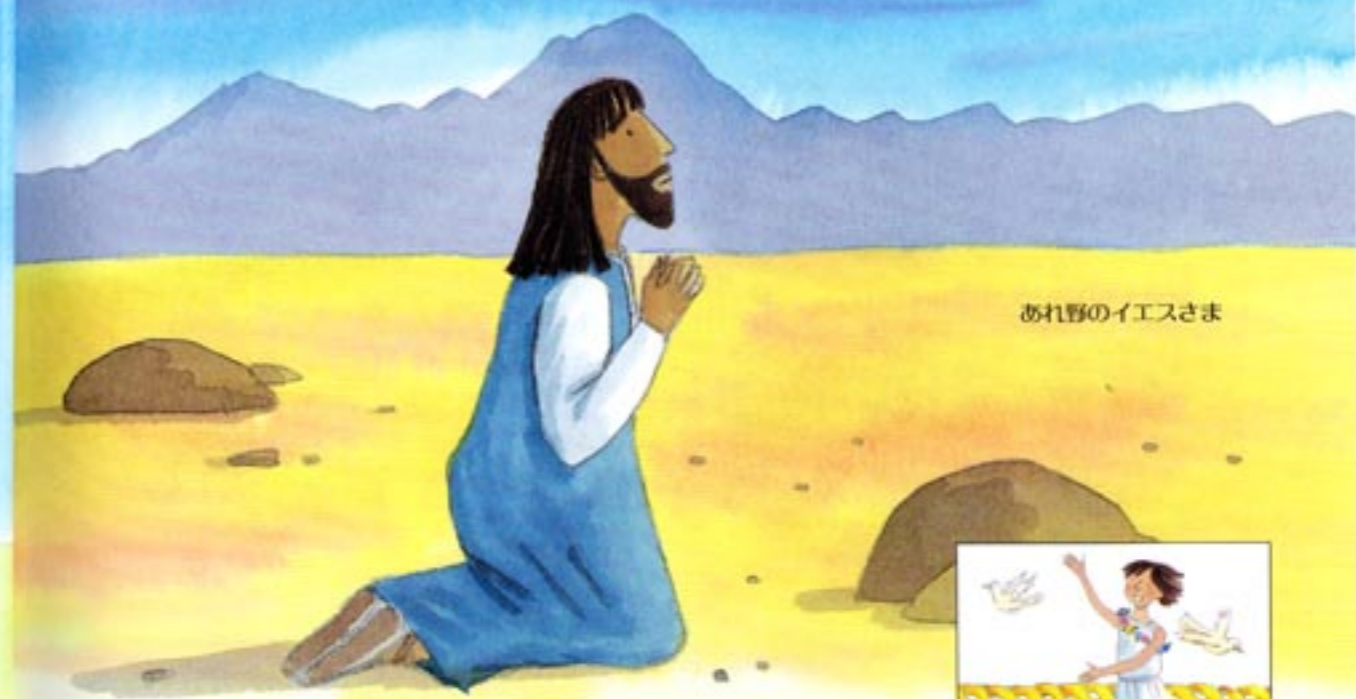


神さまの聖霊のしるし、はと



洗礼をのぞまれたイエスさま

イエスさまのいとこ、ヨハネ



あれ野のイエスさま



洗礼

イエスさまを
しんじる人は、
洗礼をうけて、
きよめられ、
神さまの子どもにして
いただきます。

それから、イエスさまは、あれ野に行きました。40日のあいだ、食べることも飲むこともしないで、おいのりしながら、これからのけいかくを かんがえておられたのです。そこへ、あくまがやってきて、いいます。「あなたは、神さまのみ子でしょう。どんなこともできますよね。お金持ちにもなれるし、力のあるえらい人にもなれる。」

イエスさまはおっしゃいました。「そんなことは、のぞまない。聖書に書いてあるように、わたしは 神さまのおのぞみになることだけをするのだ。」

6 教える人、イエスさま

イエスさまは、神さまのことを、教える人になられました。近くの町や村をめぐって、旅をしながら、人びとに話してきかせます。

「神さまのお心にしがって生きるなら、あなたたちは、神さまの国の人です。」

「神さまの国は、はじめはカラシダネのように 小さいけれど、どんどんせいちょうして、空の鳥がすをつくれるほどの、大きな木になります。」

お話はやさしかったし、イエスさまは びょうきの人をほうっておけなかったので、なおしてあげたり、いろいろなふしぎもなさいました。

人びとは、イエスさまを見たい、お話を聞きたいと、あつまってきました。



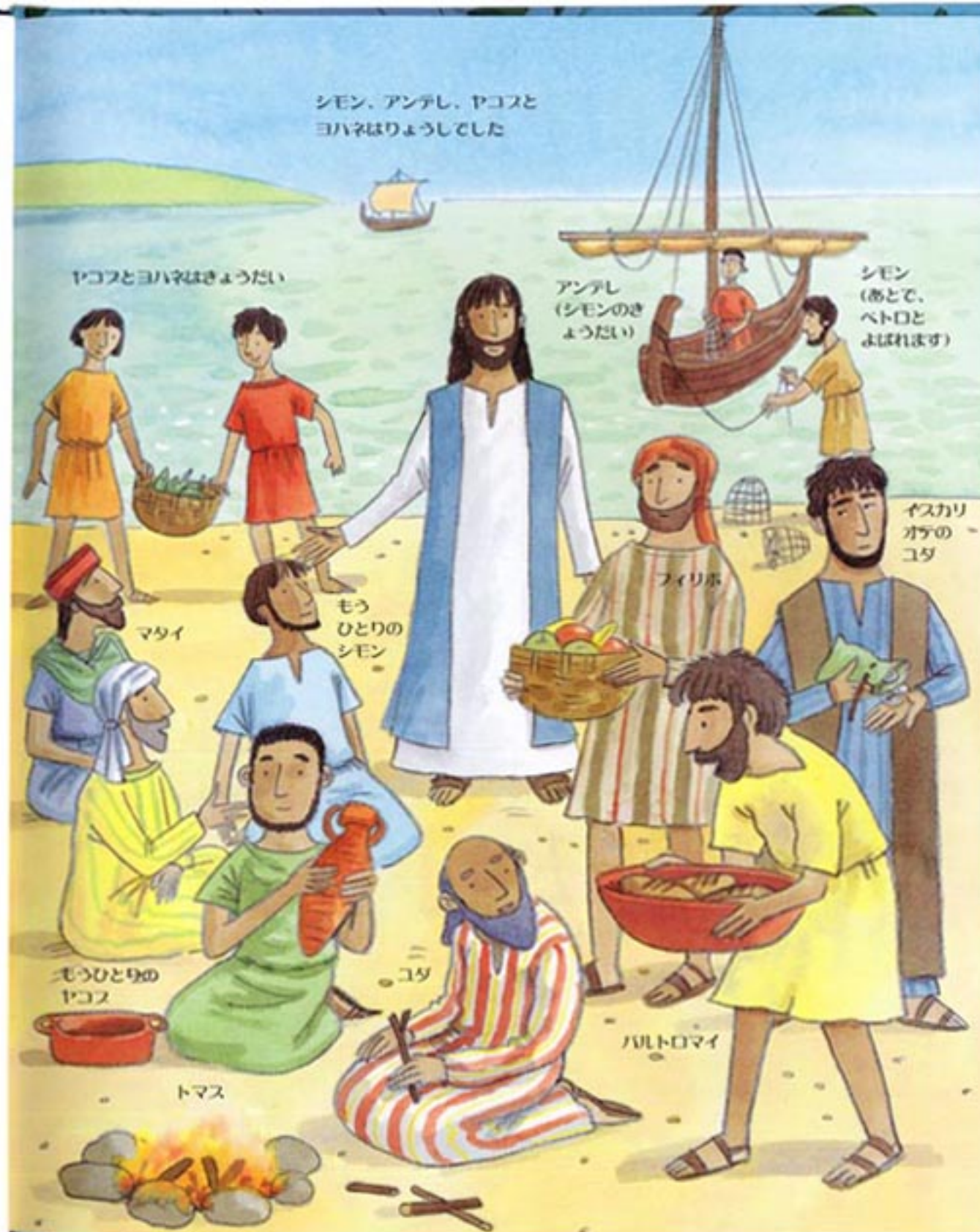
ヨハナ

スザンナ

マグダラのマリア

イエスさまと、イエスさまをてつたう人たち

イエスさまは、神さまのことをつたえるために、てつたってくれる人たちを あつめます。さいしょに、カリヤの湖で、魚をとっていた4人の男と、あとで、もう8人、みんなで12人のとくべつな弟子です。女の人もいました。イエスさまを知って、よくない生き方をやめることができた、マグダラのマリアとか、びょうきをなおしていただいたヨハナとか、スザンナとか。女の人たちは、お盆を持ちよって、イエスさまや弟子たちの おせわをしました。



シモン、アンデレ、ヤコブとヨハネはりょうしてした

ヤコブとヨハネはきょうだい

アンデレ
(シモンのきょうだい)

シモン
(あとで、ペトロとよばれます)

イスカリオテのユダ

フィリポ

もうひとりのシモン

マタイ

もうひとりのヤコブ

ユダ

バルトロマイ

トマス

7 よいおこないをすること

たとえ話

イエスさまは、人びとが
救いをよくりかいてできる
ように、たとえを使って、
お話しになることが
ありました。家をたてた
ふたりの人の話とか、
つぎの8のところの、
サマリア人の話とかです。

イエスさまは、人びとが、正しく、よいおこないを
してほしいと ねがっていらっしゃいました。

「もし、あなたに、いじわるする人がいても、
あなたは、しんせつにしてあげなさい。友だちを、
じぶんとおなじように愛しなさい。敵も、愛しな
さい。そういう人のためにおいのりしなさい。」

「よいことは、そっとしなさい。まずしい人に、
なにかをあげたり、だれかをたすけてあげるとき
も、そっと、みせびらかさないでしなさい。」

「お金のことや、いろいろなものがたりないこと
を、そんなにしんばいしないで。お花はしぜんに きれいにさくし、小
鳥はいつも歌っているよね。神さまは、お花や小鳥よりも、わたしたち
をもっとたいせつに 思っていてくださるのだから。」

「よくないことをする人がいても、ゆるしてあげなさい。
神さまが わたしたちをゆるしてくださったように。」



「わたしの話を聞いて、そのとおりのおこないなさい。
そうすれば、岩の上にしっかりたてた家が、雨にも、
あらしにもたおれることがないように、あんしんです。
でも、話を聞くだけで実行しないなら、その人は、す
なの上に家をたてる人のようです。家は、少しの雨で
くずれてしまいます。」

イエスさまの話を
しっかり聞いて
そのとおりにする人は
しっかりした土台の上に
家をたてた人のよう

8 新しい教えと、古い教え

お金をとってにげるごとう



ぬすまれた人

イエスさまのお話は、聞いている人にはまるでパズルのようでした。このお話では、ユダヤ人の古い教えを守って生きることと、新しい教えにしたがうこととは、おなじなのか、ということが教えられています。

ある日、律法のラビが来て、イエスさまの答えをためすつもりでしつもんしました。

「神さまにお仕えしようと思う者は、なにをたいせつにしなればなりませんか。」イエスさまは、ほんたいにしつもんなさいました。「あなたたちの教えには、どう書いてあるのですか。」

ラビは答えました。「なによりも、神さまを愛しなさい。そして、人も愛しなさい。」すると、イエスさまがおっしゃいました。「そのとおりです。」ラビはまたたずねました。「人って、どんな人でしょう。」そこで、イエスさまが、話してくださいました。たとえ話です。

「お聞きなさい。あるユダヤ人が、道でごとうにあいました。ごとうは、持ち物をうばっただけでなく、その人をはんごろしにして、にげました。



見るだけの、宮ではたらく人

そこへ、宮に仕える祭司がとおりかかりましたが、たおれている人を見ても、知らん顔をして、行ってしまいました。つぎに、もうひとり、宮ではたらく人がとおりかかり、また見て見ないふりをして行ってしまいました。それから、ひとりの外国人、いつもユダヤ人がばかにしているサマリア人が来て、その人を見ると、近づいて、たすけてあげました。きずのであてをして、じぶんのろばにのせ、やどやまでつれていって、その人のふんまでお金をはらい、めんどろをみてあげました。さあ、この3人のうちで、だれが、じぶんのようになんを愛したのでしょうか。」

ラビは答えました。「さいごの人です。」イエスさまはおっしゃいました。「そう、そのとおり。では、あなたも、そのようにしなさい。」

いどいで
とおりすぎる
祭司



たすけるために、
たちどまるサマリア人

